

ISO/TC 61/SC 14 (環境側面) 分野における規格開発の状況

ISO/TC61/SC14では、環境に関わるプラスチックの試験方法や評価方法の規格の制定・改正が行われている。表1にSC14の組織を示す。

表.1 TC61/SC14の傘下のWG

WG	コヒナ	名称
1	イタリア	用語、分類
2	日本	生分解性プラスチック
3	アメリカ	バイオベースプラスチック
4	ドイツ	マイクロプラスチック
5	スウェーデン	リサイクル

なお、WG4及びWG5の正式名は以下のとおりである。

WG4：環境に漏出したプラスチック（マイクロプラスチックを含む）の特性評価とそれぞれの方法の品質管理基準

WG5：機械的および化学的リサイクル

TC61SC14の年次会議が毎年開催される。そこでは、全てのWGの会議が開催され、審議が行われる。日本からは毎年多数のメンバーが参加している。

昨年2020年は10月8日～10月9日にZOOMによるバーチャル年次会議が開催された。

今年2021年も9月20日～9月21日にZOOMによるバーチャル年次会議が開催される予定である。

以下に昨年の年次会議の状況について日本提案を中心に紹介する。

1. 用語、分類 (WG 1)

ISO /AWI TR 4763 (環境側面－規格化に使用される用語の解析) をCDとする事を承認した。

2. 生分解性プラスチック (WG 2)

①ISO DIS 16929:2019 (パイロット規模の試験における定義された組成条件下でのプラスチック材料の崩壊の決定)

WG 2は、SC 14に対して、技術的な変更を伴うこの改訂されたDISをFDIS投票に提出することを提案した。

②ISO DIS 14852 (水性媒体中のプラスチック材料の最終的な好気性生分解性の決定 - 発生二酸化炭素の分析による方法)

DIS投票は終了した。投票結果は回覧されていない。

③生分解のガイドラインについて海洋標準とマルチフィルム仕様の新提案に関する文書を作成する。

3. バイオベースプラスチック (WG 3)

①バイオベースプラスチックの炭素、環境フットプリントに関する規格 (ISO 22526 シリーズ/4パート) の開発が進められており、パート1から3が発行された。

②ISO/DIS 2256 Part 4 (環境 (合計) フットプリント、ライフサイクルアセスメント)

この規格はCEN TC411/WG4との連携により、そこで発行された規格EN 16760を基に準備されている。DISに進めることを決定した。

4. マイクロプラスチック (WG 4)

2つのプロジェクトSC14のISO/NP 24542 (浮遊物質の含有量が非常に少ない水中のマイクロプラスチックを分析する方法) と ISO/TC 147 (水質) のSC2 ISO/NP 24606-1 (水質- 飲料水および地下水中のマイクロプラスチックの分析- パート1: 振動分光法を使用した方法) は、仕事の重なりから停止している。ISO/TC147の下でJWGを作ることが計画された。

5. リサイクル (WG5)

①ガス化によるプラスチック廃棄物のケミカルリサイクル

ガス化に関する日本の提案が発表された。WG5は、ISO/TC61/SC14に、この予備作業項目の承認のための投票を進めるよう勧告することを決定した。

②ペットボトルのリサイクル

ペットボトルのリサイクルに関する日本の提案が発表された。この提案は多くの国で法制化されている可能性があることが指摘された。しかしながら提案された規格は法律と矛盾するものではない。WG5は、この予備的作業項目の承認のための投票を進めるようISO/TC61/SC 14に勧告することを決定した。

③IEC/TC 111

IEC/TC 111で進められている「電気・電子製品およびシステムの環境標準化」と、作業ドラフトIEC 62321-13 ED1「電気技術製品中の特定物質の定量-第 13 部:液体クロマトグラフ・ダイオードアレイ検出 (LC-DAD)、液体クロマトグラフ・質量分析 (LC-MS) および液体クロマトグラフ・タンデム質量分析 (LC-MS/MS) によるプラスチック中のビスフェノール A の定量」(附属書 B)を紹介した。

以上